



Twitter 短歌クラスタ有志 2011 春の合同プチ歌本

こはぎ

おちゃこ

いくすけ

未央

さくらこ

晴流奏

MAI

たえなかすず

水川史生

千葉けい

田中ましろ

みちみちて ふるふるふわり はるはふる きみのゆびさきで とけて しみゆく

永遠を誓いはしない春の日に君と繋いで居たい左手

カーテンを揺らす春風に頬晒しふたり歓楽を貪る真昼

それだけの栄光 ふたり春の陽に解く胸元 沁みてゆく過去

胸の奥 会いたいと哭くこの恋が不滅であれと祈る春空

不死という言葉持つ花手折りしはいつか消えゆく君というひと

こはぎ

@kohagi_tw

大好きな早春の花、沈丁花の花言葉「永遠」「歓楽」「栄光」「不滅」「不死」の5つを詠み込み、恋の歌にしてみました。

丁寧な言葉交わして抱き合ったくすぐったいよな始業式です

恋してるわけじゃないけど暖かな風に誘われ唇合わせ

二回目のデートは服だけじゃなくて桃色の下着選んでみたり

脇腹を摘まんでみたりつついたり薄着が誘うイタズラ心

ちよっとだけ遠回りして歩かない？小指繋いで見る宵桜

おちゃこ

@ochakomidori

春の暖かさに誘われ、なんとなあく始まりそうな恋の予感を5首詠んでみました。

柔らかな春の日差しはまどろみの君の心のコートも脱がせて

誘われてコートもブーツも脱ぎ捨てた心はあなたに脱がせてもらおう

和らいだ日差し部屋の部屋で君纏うレースは揺れる心模様

揺れ動く心は春の空模様ほかしておくわレースの向こう

隠せないレースの向こうは陽を浴びた桜色した君の柔肌

いくすけ

@iiikusuke

春になれば重いコートは脱ぎ捨てて身も心も軽くなりたい。
新しい恋もしたい。という男と女のやりとりです。
春になれば新たな息吹も芽生えれば覆いは外して香るがままに

溶け出した冷たい土の隙間から季節の産声 蕾が揺れる

冷えきってふるえる蕾をほころばす目覚めの合図 南からの使者

春一番 小鳥の歌も舞い上げて 白黒の街塗り替えていく

川沿いの桜並木に舞いおりて枯れ木に宿る花唄のヴェール

誰を待つ 零れる桜の木の下で 乙女の肩に宿る花びら

未央

@mio_tukushi

春になるとなんとなくわくわくします。季節の移り変わりと、それと一緒に心もふわふわしていく様子をイメージしました。あたたかい春の気配をお届け出来たらいいなと思います。

春の雪ほとほと零し椿姫 八重の心を謳いましょう、と

見下ろせど恋う人の無い雪中花 春の波間が抱く群青

薄桃の肌はあなたのためにある 散る花びらを抱くようにして

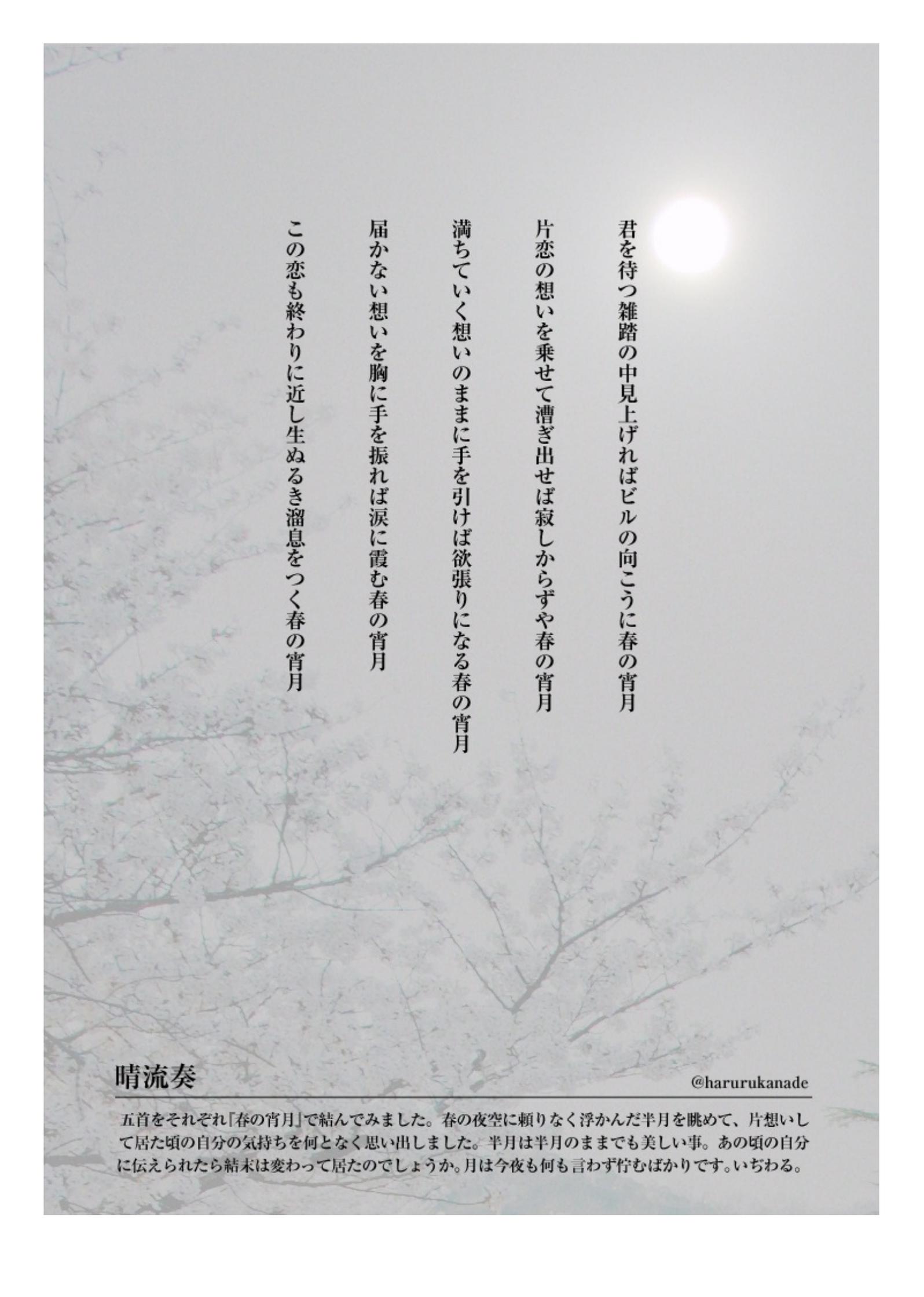
沈丁花身をひそめても匂い立つ想いを隠すことはできずに

さくらさくら ほくに微笑む薄紅のくちびるの君 遠いまぼろし

さくらこ

@sakrako0304

この季節から咲く花を順番に、花言葉を底辺に敷いて詠みました。
「椿：至上の愛らしさ」「雪中花＝水仙：自己愛、わたしの元へ帰って」
「桃の花：私はあなたのとりにこです」「沈丁花：不滅、永遠」「桜：優美な女性、純潔」



君を待つ雑踏の中見上げればピルの向こうに春の宵月

片恋の想いを乗せて漕ぎ出せば寂しからずや春の宵月

満ちていく想いのままに手を引けば欲張りになる春の宵月

届かない想いを胸に手を振れば涙に霞む春の宵月

この恋も終わりに近し生ぬるき溜息をつく春の宵月

晴流奏

@harurukanade

五首をそれぞれ「春の宵月」で結んでみました。春の夜空に頼りなく浮かんだ半月を眺めて、片想いして居た頃の自分の気持ちを何となく思い出しました。半月は半月のままでも美しい事。あの頃の自分に伝えられたら結末は変わって居たのでしょうか。月は今夜も何も言わず佇むばかりです。いちわる。

とどかぬと遠く眺めし月見夜に春風ふうわり重なる調べ

あい初めのサクラ舞う夜はうす紅の宵待月のうるわしき夢

夜をこめて夢路さやけき望月の吐息かさねし影の艶めき

さめやらぬ十六夜酔いし迷いみち雨ささめきて散る花静か

有明のかすけし月の影消えぬ勿忘草はつゆ草の影

MAI

@maikagami

春の風に出逢い桜舞う夜に影を重ね酔いしれ焦がれるも
静かに涙に散る女の定。ただ忘れないで…。
月の想いになぞらえて。という感じで詠んでみました(^^)

まなぶたに白を塗るとき拡がってゆく死んでゆく僕の水仙

今朝早く洗いし髪はすみれ色かかとを深き海に沈めて

アネモネのめざめ無心に萌え出づる漲らんかなくちびるの紅こう

ああさくらこんじき金色のティーは波打ちて今年も一緒と言ったじゃないか

花びらを重ねる重さ肌吸えば満ちるシロップもはや春かと

たえなかず

@suzusuzu2009

春のお花つながりで詠みました。

綻びた小指の糸をなびかせて窓から君を攫った春荒

キッチンに落ちた最後のさよならと苺ムースが舌に溶けゆき

これもまたひとつの季節なのだねと浴槽に撒く桜、はなびら

体温が一つしかない寝台で膝を抱える花冷えの夜

芽も花も君も午睡ももうなくて春陽残るワンルームだけ

水川史生

@cloy_end

「ワンルームでさよなら」が裏テーマでした。がらんとした部屋と女の子の、「空っぽ」を感じて頂けたら嬉しいです。ありがとうございました。

消えてゆく足跡のよう聞こえる足音のよう君を待つ春

マグ包み温めていた掌を開けば卵色した3月

春風に軽くウィンクで振り向けば れんげ草と君 笑いかけてる

春の風 低く近くに聞こえる君へ飛びたくて勢い纏う

春待ちの雪に溶けゆき桜花 舞うように君の近くにいます

千葉けい

@_zelkova_

東北の冬は少しだけ長く、さまざまな顔をしながら春へと変わっていきます。
春を待つように揺れながら、想う人との出逢いを淡く夢見て。。

「連作・はるのへ」

読みかけの本に親指をはさんでうたた寝をするあなたにも、春

雪解けの音に似ている おはようと告げて最初にするまぼたきは

たんぼぼで花占いをする人のとなりにあたたかい風は吹く

ひらひらと（あれは蝶？）でもしっかりと（ううん、鳥だね）僕たちはゆく

言葉って言葉がいつせいに羽ばたき たぶんこれから愛を知るんだ

田中ましろ

@tkmsr

四季に感情を割り当てると、春には、「やさしさ」がよく似合います。
ゆっくりと流れる春の時間を切り取ったらこんな言葉が芽を出しました。

はるふる

Twitter 短歌クラスタ有志 2011 春の合同プチ歌本

寄稿：Twitter 短歌クラスタ有志

編集・装丁・題字：こはぎ @kohagi_tw

発行：2011年 春